

外科学概論		講義	教授 加藤 政彦
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12321305

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。本授業では、外科的に取り扱う代表的な疾患を学び、将来、臨床の現場で活躍するための基礎力をつける。

2. 授業の進め方

テキストの範囲の内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題等を出題し解答を出席カードに記載して提出させる。テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 損傷・創傷・熱傷	9. 胸壁・呼吸器疾患
2. 炎症と外科感染・腫瘍	10. 心臓と脈管疾患①(心臓疾患)
3. 腫瘍・ショック・輸血と輸液	11. 心臓と脈管疾患②(脈管疾患)
4. 消毒と滅菌・手術・麻酔	12. 腹部外科疾患の主な症状と検査
5. 移植と免疫・出血と止血・心肺蘇生法	13. 代表的腹部外科疾患①(食道・胃十二指腸・大腸)
6. 脳神経外科疾患①(脳・神経疾患の主要徴候)	14. 代表的腹部外科疾患②(肝・胆・膵)
7. 脳神経外科疾患②(主な脳・神経疾患)	15. その他の腹部外科疾患
8. 甲状腺・頸部疾患・乳腺疾患	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験の問題を实践解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

総論や、各疾患の病態、症状、診断法、外科的処置を理解し説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

平常点(30%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：炭山嘉伸編，全国柔道整復学校協会監修，外科学概論 改訂第4版，南江堂，2012年

参考文献：明治東洋医学院編集委員会編，2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023年

適宜指定する教材

これらは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は、適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。